



Kasugaoka J.H.S

明日への扉

アスヘノトビラ



令和2年11月号

京都市立春日丘中学校

道徳通信

学校教育目標

『すべての子どもの

学習機会の保証』



10月末から6人の教育実習の学生さんを迎え、教科授業や部活指導、また道徳の授業においてもお世話になった3週間でした。私たちにとっても充実した3週間でしたが、きっと教育実習生にとっても忘れられない3週間であつたらいいと思います。みなさんも実習生と関わり、感じた様々なことをこれからの生活に生かして欲しいと思います。

さて、話は変わりますが、第3回テストはどうでしたか？自信を持って「できたぞ！」と言うことはできますか？もうほとんどのテストが返却されていると思いますが、テストは受けて終わりではありません！返却されたテストを見直しながら「どうして間違えたのか」というところまでしっかり振り返り、これからの自分の勉強につなげていくことが大切です。ただ単に、点数に一喜一憂するのではなく、どんな結果であれ、次につなげられるよう「復習」（振り返り）に力を入れて次に生かしてください。

気づけば今年もあと1ヶ月。やるべきことは全部やった！という充実感を持って、今年を終えられるように、来月も全力で頑張っていきましょう！！



***—*—*—*—*—授業の様子を紹介します—*—*—*—*—*

“母はおいしい” ～ローテーション道徳より～

今月からローテーション道徳を行っています。みなさんが「今日はどの先生がくるのかな!?」と道徳の授業を楽しみにしている様子を、とても嬉しく感じます。白木先生の授業を紹介します。

みなさんは最近、お家の人とどんな話をしますか？「勉強しなさい！」「ゲームばかりしない！」「はやく寝なさい！」などと言われ「うるさい！」と反発していませんか？このお話にでてる「母ちゃんもおいしいだよ」という言葉から、母が家族を想う気持ちを知った主人公。そんな主人公に“今の自分”を照らし合わせて考え、そして最近の自分を見つめ直すことができましたか？家族はそばにいてくれて当たり前ではありません。気づいたときに感謝の言葉を伝え、行動で表すことができたらいいですね。

《ワークシートより（授業の感想）》

- このお話のお母さんの押し入れ（心の中）のように、私のお母さんの心の中もそうだと考えたら、申し訳ないと思った。だからできるだけ苦勞を貯めさせないように自分も努力してしっかりしようと思う。
- 家族からは、どう思われているのかあまりわからないけれど、大切な存在なので、親目線にもなって考えることをしてみたい。
- 改めて幸せな家庭に生まれてよかったなと思った。お母さんとお父さんの苦勞が分かった。自分も結婚できたら幸せな家族になりたいと思った。自分のお母さん、お父さんを見習って家庭を築こうと思った。
- 自分のためにお母さんがたくさん働いて、いろんなことを自分たちの時間に使ってくれていると知ってとても感謝している。私も家族のためにできることをやりたい。



“伝える言葉” ～ローテーション道德より～

10月後半から始まったローテーション道德では、学年の担任・副担任の先生方が交代で、各クラスで授業をします。毎回授業を行う先生が違うので、今までの道德とはまた違った雰囲気を感じられますね。今回は、金沢先生の授業の内容を紹介します。

みなさんは、自分の言葉が相手に思うように伝わらず、思わぬ誤解を招いてしまったり、それがきっかけでケンカになってしまったことはありませんか？今回の授業では、自分の体験を振り返り、あるLINEでのやりとりをもとに、どこがいけなかったのかを考え、どうすればよかったのかを考えました。身近な話題ということで、内容的には考えやすかったのではないのでしょうか。この授業において、相手に気持ちを伝える難しさや相手を思いやる気持ちの大切についてしっかり考えることができたら嬉しいです。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・自分がいいと思ってても相手が勘違いして、感じ方が悪い方にくるとケンカのなどの原因になるので、しっかりと考えて行動したいと感じた。1度言ったことは相手の心に残る。なので、一人ひとりがもう1度しっかり考えたほうがいいなと思った。
- ・LINEだけでなく、直接伝えることが大切だと思う。LINEで伝えるときは「？」や「！」などの絵文字などを使って自分の気持ちを伝えるのが大切だと思う。
- ・文章を送る前に、この文章を送って相手に違う意味で伝わらないかを考えてから文章を送るようにしたい。



“一冊の漫画雑誌”

2011年3月11日東日本大震災が起こり、東北地方一の大都市仙台も大きな被害に受けました。街の小さな本屋さんも店を開けられない状態でしたが「店を開けてほしい」という近所の方からの要望に応じて地震からわずか3日後の3月14日にお店を再開しました。毎週創刊されている漫画を読みたい子供たちが店にやってきますが、流通は止まっているため、新しい雑誌や本は入ってきません。そんなとき、男性が読み終わった週刊雑誌を譲ってくれました。それを知った子供たちは大喜び。そんな子供の姿を見て、涙を流す母親もいました。それから多くの善意が集まり、最新の雑誌や本が届くようになりました。いつしか子供たちが発案した募金箱も設置され、そのお金は他の被災地に寄付されました。思いやりは少しの気遣いと相手のことを思う気持ちです。学校でも「思いやり」のある行動を目にすることがたくさんあります。これからもそんな「思いやり」のあふれる春日丘中であり続けてほしいと思います。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・一冊の漫画を子供たちが取り合いをしたり、盗まれるようなことがなく、順番を守って読まれ続けたことも一人一人の思いやりがつまっていたと思った。
- ・危険なときこそ助け合える世の中は素晴らしい。
- ・どんな状況でも人と人が助け合い、協力することができたら、多くの人を笑顔にしたり、わくわくさせたりできると思った。
- ・震災の状況だからこそ思いやりを持てる日本人は素敵だと思った。困ったときや大変なときこそ思いやりをもてる人になりたいと思う。